

＜シンポジウム 11—2＞神経内科医のリクルートに繋げる未来への提言

Expert/Neurologist～臨床

東海林幹夫

(臨床神経 2011;51:958)

Key words : 医学教育, 臨床神経学, 神経内科医, 経歴, リクルート

日本神経学会は2010年に設立50周年の節目を迎え、会員数8,500人、専門医4,600人、教育施設300病院と発展し続けている。また、神経疾患の病態解明、診断、治療法の開発には多くの神経内科医が貢献してきた。臨床神経内科学は脳血管障害や認知症、頭痛症などのcommon diseaseからパーキンソン病や脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症などの神経変性疾患、多発性硬化症や重症筋無力症などの免疫性神経疾患、末梢神経・筋疾患、神経感染症などを対象とするため、他科にくらべきわめて広く高い専門性が要求されている。また、救急疾患の25%、寝たきりの40%は神経内科疾患で、内科疾患の60%に神経症状が出現することから、救急期から慢性期診療、リハビリテーション、高齢者・在宅医療、療疾病予防、遺伝カウンセリングまで神経内科医は現実的にきわめて必要とされている。

しかし、全国80大学の多くの神経内科部門は未だに小規

模で、20大学では独立もしていない。新臨床研修制度が開始されてからは、一部の施設を除いて、どこの大学、どの病院の神経内科医に聴いても神経内科医不足を指摘しない施設はない。この神経内科医不足は地方においてさらにいちじるしく、昨年の本学会シンポジウムでも議論された。この影響は学会出席率の低下、論文発表の減少、国際学会発表や海外留学の減少、神経科学基礎研究者の減少など、これからの臨床神経学の発展の根幹とも深く関連している。このような状況下に、各大学、教育病院とも臨床教育システムや医療環境の改善のための献身的な努力をおこない、医学部卒前教育、卒後教育による臨床神経学の本来の重要性と意義は十分教育されつつある。しかし、将来神経内科専門医や研究者をめざす若い医師は現実には増加していない。本シンポジウムでは神経内科臨床医の立場から、神経内科医不足の現状と望まれる対策について考えてみたい。

Abstract

Expert/neurologist～clinical

Mikio Shoji, M.D.

Department of Neurology, Hirosaki University Graduate School of Medicine

(Clin Neurol 2011;51:958)

Key words: medical education, Neurology, Neurologist, career, recruit